

稲葉「来年は世界一、日本一」

金・志村「女子野球広めたい」

スポーツ界で今年活躍した北海道関係選手に贈る北海道新聞スポーツ



祝賀会で村田社長（左端）と祝杯を挙げる、（右から）藤田、上野、志村、金、稲葉

北海道新聞スポーツ賞 受賞者さらなる飛躍誓う

賞の贈呈式と祝賀会が6日、札幌市中央区のホテルで行われ、出席者から祝福を受けた受賞者は、さらなる飛躍を誓っていた。

受賞者は、本賞がプロ野球の稲葉篤紀（日本ハム）ら4人、特別賞が柔道の上野順恵（三井住友海上↑旭南高）ら3人。

稲葉は「優勝パレードで見た皆さんの笑顔がすてきだった。来年は、日本一とワールドベースボールクラシック世界一を目指したい」と言葉に力を込めた。ロンドンパラリンピック自転車銅メダルを獲得した藤田征樹（茨城県、稚内高出）は「藤田はよくやっていると思われるよう、さらに頑張りたい」と意欲を示した。女子野球ワールドカップで3連覇を達成した日本代表のメンバー、金由

起子（ホーネット・レディース）と志村亜貴子（アサヒトラスト、道浅井大出）は「もっと活躍して女子野球を広めたい」と口をそろえた。

一方、特別賞を受賞したロンドン五輪柔道女子で銅メダルの上野は「応援のおかげでメダルを取ることができた」と感謝を表した。また、同五輪サッカー女子で銀メダルの2人はリーグ戦などのため欠席。高瀬愛実（INAC神戸―道文教大明清高）の父健二さんは「指導や環境が育ててくれた。感謝を忘れないようにしてほしい」と話し、熊谷紗希（フランクフルト、札幌駒内中出）の父敏夫さんは「自分にできることを精いっぱいやり、ワールドカップ連覇と五輪金を目指していきたい」とのコメントを代読した。